



まさに秋晴れ絶好のツーリング日和！
内外の名車達が高速道路を疾走する。
軽快なサウンドを響かせ

平日
ツィー
バンザ
イ!!



これが平日の圏央道。見送り限りツーリング参加車しか見えないほど交通量がガラガラだけに急ぐ必要なんて皆無。各自が自分のペースで走れるのもこのツーリングのいいところ。

Time Tunnel Touring



奥様とタンテムで参加の磯目さん夫妻。二人のこの笑顔を見てもらえればその楽しさを分かってもらえるのではないだろうか。仲良くしたいご夫婦にはタンテムランが妙薬ということの証明。



やっぱり昭和が好き!



BSA A31 (350cc)
女性でも乗れます!

タイムトンネルスタッフの田井さんは1935年製のトライアンフ・フルスターで参加。
「今回は自分のバイクが70年以上も前のイギリス車ということもあり、正直ツーリングを楽しむ余裕はあまりありませんでした。ただ、一台も故障車なく走りきれて良かったです」



(上) 秩父に入って最初のガソリン給油。しかし、滅多に見ることの出来ない年代もののバイクがこれほど一度に入ってからガソリンスタンド側もビックリ! (下) 信号待ちで突然Z2が不調に……。しかし慌てる必要はなし。タイムトンネルのメカニックがその場ですぐにメンテしてトラブル解消。

真 ついに光り輝くトンネルの先には一体なにが待ち構えているのだろうか……。このトンネル走行シーンを見て昭和41年からTVで放映された米SFドラマ「タイムトンネル」を思い浮かべたあなたはきっと昭和30年代生まれのBG読者ではないだろうか。中央道から圏央道に入り、まるで時空移動装置Ⅱタイムトンネルを彷彿とさせる長いトンネルを抜けると青梅IC。ここからは下道を使い、名栗湖経由で秩父へと向かう。都会からわずか1時間も走れば信じられないほどの豊かな自然に触れ合える東京近郊のオアシスがそこにはある。しかもこの日は平日月曜日。そう、タイムトンネルツーリングは平日開催が基本だからどこを走っても交通量がガラ、最高に快適で気持ちいい走りを楽しめるのだ。

飯能の田舎道から山伏峠のワインディング、最終目的地の長瀬まで片道約150キロの道のりは最新モデルならまさにあつと言つ間の距離。しかし、70年代に一世を風靡した国産車から1950年台のトライアンフまで含めて総勢24台の旅。だけに全員完走という大きな目標があるのがこのツーリングの面白いところ。もちろん?今回は一台の脱落車も出さず無事無事完走を果たし、「こんな楽しいイベント、年一じゃ少なすぎ!」せめて春も開催希望!! 出来れば年末忘年走り収めも!!! のリクエスト多数。

トンネルの向こうは パラダイス!?

悠久の時を経て現代に語り継がれる名車の数々…。それらが一堂に介し、弾けるようなエキゾーストノートを響かせて走る姿は一見の価値あり! 次回はあなたもぜひ。

撮影●鈴木広一郎
主催●タイムトンネル ☎ 03-0429-3355 <http://timt.co.jp/>

秩父エンターテイメント



長瀬ライン下り



「岩にかくれて長瀬くだり 船は瀬まかせまかせ」
そんな長瀬ライン下りに挑戦！
「思いの外皆さんからの反応が良く、
こういう癒しの時間の必要性が
わかりました」とTT 星川店長。
問：長瀬町ライン下り案内所
☎ 0494-66-0905
営業：3月上旬から12月上旬
am9:00 ~ pm4:00

ツーリングの楽しみを満喫

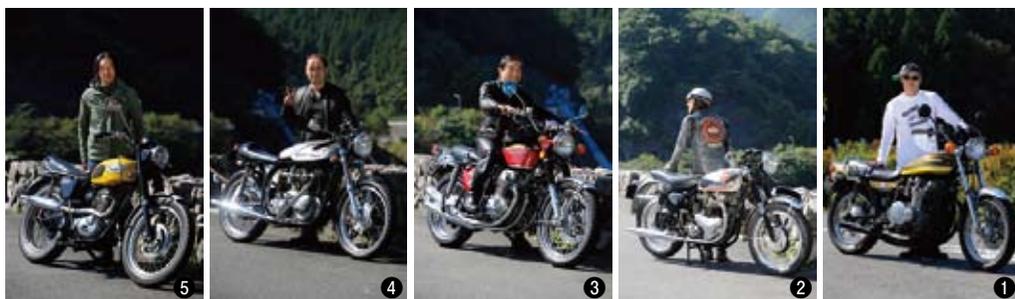


秩父の皆野町にある「いこいの村ヘリテージ・美の山」で待ってましたランチタイム。ツーリングした後のごはなんてどうしてこんなに美味しいのでしょうか？ 解散は関越道・三芳PA。来年もまたあいましょう！

名車に乗ると
精力が
つきますよ！



バイクに乗るだけでも元気になるのに、それが名車だったら元気百倍！ すずめばちのはちみつ漬けでさらにパワーアップ！



- ① KZ900 で参加の春木憲昭さんは「永年連れ添ったGT380を手放し、今年初めてZを購入しました。いつかは、Zの夢が実現しました」
- ② 去年はBSA RGS がエンジントラブルで無念のリタイヤを喫した及川ひろきさん。「今年こそとばかり、スロットルを開けましたがいい感じ」
- ③ 「コース、食事、ライン下りと大満足。来年もぜひ参加したいです」
- ④ 直前にピストンリング焼き付きでエンジン全バラ、組み直しまで全部自分でやった佐藤さんのトライオン。「飽きのこない最高の一台です」
- ⑤ 「ボクのTR25Wは排気量が小さいので、今回くらいのペースがベスト！ ゆったり走って満足です」と菅野喬之さん。



(右)「こういう大勢で走るのは初めてなんです。走るだけじゃなくて景色を楽しむのにも必要だと感じました」とZ2で参加の早房利幸さん。
(左)「今年は増車したホンダで参加しましたが、良いですね、ホンダ凄く良いです。遅いけど……。ライン下りも楽しんでたみたいで大成功」とスタッフの平野さん。



(右)「16年ぶりのツーリングでコーナーなど怖かったのですが何とか完走。翌日お店でCB750K 4の頭金を払いました」と大胆なCB400Fで初参加の川口晃七郎さん。
(左) 毎回400Fを素手で操る木下清源さんが「今回はグローブを用意してきましたよ。でも途中で暑苦しくて結局脱いで走りました」



(右) いつもはソロツーリングが多いというZ1で参加の山田正雄さん。「初参加ですが旧車の仲間がいるっていうのは楽しいですね」
(左) なんと用賀のホテルに前泊して万全の体制で参加の磯目徹弥さん、やよいさんご夫妻。「手に入れたばかりのBSAでも無理のないペースで走って満足です」



(右) 最近、CB72からT250に乗り換えた濱部隆広さん。「T250のほうが実用的で快適性も上なんです。(中)「大型車より中型車が好きで、KH250もあるのに400FXも手に入れました。やっぱり角Zはいいですねえ」と長野秀一さん。(左) 400F歴18年の長谷川仁さん。「タイムトンネル作の1935年式BSA、あれがあの走りを見せてくれるとはバイクって凄い！最高です!! 楽しいです!!!」



(右)「楽しかったぁ。KZ900さんとツーリングの約束が出来ました。でもその後、走行中に突然スローダウン……」と予期せぬトラブルに遭遇の中平英俊さん。
(左)「仕事が入ってどうしても途中で抜けなくちゃいけない、ライン下りも体験したかったなぁ」とKZ1000で参加の倉田憲幸さん。



(右) Z1で参加の及川勝さんだが「なんか一緒に走った400Fの走りを見てたらあれもいいなぁ、欲しい!!」となり、現在手に入れるべく画策中だそう。
(左) 皆勤賞、岩井靖男さんは今回750SSで参加。「トルクのある750SSでノンビリ走るのが楽しくて、ボクも年を取ったのかなぁ、と少し実感」



(右) CB900F 乗りタイムトンネルスタッフの伊藤さんは「今回はなんと言ってもリタイヤが出なかったことが嬉しいです。田井のBSAが危うかったですが(笑)」
(左) 今回はモトグッツィ・ルマンで颯爽とワインディングを駆け抜けた年齢・名前不肖のMichel-K。かなり大きなガレージをお持ちのようだ。



圏央道の青梅ICからR53を秩父方面に約23キロほど進んだところにあるのが名栗湖。今年は紅葉が遅れ気味で、今から行く紅葉狩りにバッチリだ。

マスツーリングって楽しい!



年上
が
好き
なん
です
♡

(右) 皆勤賞!金森めぐみさんは今年も真っ赤な400Fで参加。「さすがにホンダ、わたしより全然年上だけど11年目の400フォアは壊れる気配もありません」
(左) 年に似合わず英国車好きなBSA乗りの吉永大介さん。「年に一度のこのツーリング、珍しいバイクと共に走れること、また風を切って走る爽快感、もうたまりません!!」



(右) 落ち着いた色気のKZ900は大人の雰囲気の中山さんにピッタリ!「あまり見かけない純正カラーのノーマルルックが気に入ってます」(中)「4回目のツーリングでしたが、今回は一番よかったですね。すごくまとってて。疲れるのわかってるんですけど、H2が大好きです」と坂和典さん。(左)「年一は少ない!もっとやってくれたら毎回参加します」KH400で参加の三瓶充さん。



(右) ノートン・コマンドーで初参加の衛藤さんは現在62歳。「この最終型コマンドーはセルが付いているから楽ですよ」(中)「タイムトンネルにW1を買いに行っはすがなぜかトラのT110が……。ツーリングでは程良いペースで英国車にピッタリでした」と大和さん。(左) 峠のワインディング下りでは他の参加車以上のペースでBSAブルースターを走らせるスタッフの田井さん。



バス釣りにはよく知られる人工的に作られたダム湖が飯能にある名栗湖だ。サイクリング、カヌーと遊び遊びも充実。かと思ふと信号待ちでいきなりプラグキャップをいじり始めた早房さん、大丈夫でしたか?

今年も良かったですね。バイクの調子サイコー、ライン下りもサイコー、BSAの夫婦、かっこよかったな。来年も4649でーす☆)とCBM72の柳沼亮さん。